

明専スクールを通しお伝えしたいこと

情知H4 浅辺 公彦



◆はじめに

昨年10月13日、11月3・4日の3日間に渡り、平成30年度「明専スクール」が開校されました。

明専スクールは、既に内定が決まった学部生・大学院生に対し、社会人としての一步を踏み出すための心構えや考え方・姿勢を先んじて学んでいただき、入社直後からしっかりとスタートダッシュを切っていただきたいとの目的で開催されているスクールです。

その内容は座学による講義だけではなく、出張報告書を題材とした報告業務の演習、グループ討議による組織的な成果物作成と成果プレゼン

の演習を柱としており、参加した学生達が主体的に考え、行動し、実践形式で企業における業務を疑似体験していただけるものとなっています。

スクールの講師は明専会の大学OB・OGが担当しており、同窓だからこそ伝えられる生々しくも含蓄のあるご自身の経験談や、最前線で活躍されている企業人の目から見た現在の企業の状況等、大学の講義では決して知り得ることのできない、付加価値の高い内容に溢れています。



図1：講義の様子

◆出張報告書

スクール初日は座学による講義が中心で、主にグループ討議のインプットとなるテーマの講義を講師より受けます。

その後、11月に開催されるグループ討議までの課題として、出張報告書の提出を求められます。

出張報告書のテーマは「九州工大で明専スクールという興味深い講義がある。講義に参加し、有益な講義かどうかを報告すること」というもので、学生は明専スクールに実際に出張したと想定し、そこで得た内容を報告書として提出します。

報告書の提出には期限が定められ、上司役のOB・OGが提出された報告書に対してスピーディーかつ念入りにレビューしフィードバックを行います。

大学でも課題やレポート等、期限が定められた中での成果物作成と提出は経験しますが、この演習では、そのプロセスや考え方が学生と社会人とは全く異なるということを経験します。

少しだけ種明かしをしますと、企業における成果物は、個人の知見だ

けで作るものではなく、上司や先輩等、組織的に複数の識者の知見を集約することにより、完成度を高めていくことが求められます。この演習ではそのプロセスをOB・OGの方々のレビューを通じて実体験できる設定となっています。

今年度参加した学生達も、OB・OGからのフィードバックや、講師による課題提出後の目的や考え方についての説明を聞き、この演習とスクールの意義や価値に気づいてくれたように感じます。

◆グループ討議

グループ討議は「今一度企業を考える」をテーマに、「企業とは何か」「技術に堪能なる土君子として今からどう行動するか」の切り口で2日間にわたり討議を行います。

学生はA～Fの6チームに分かれ、それぞれのチームにOB・OGが専属のスタッフとして付き、討議の進行をサポートします。

討議の結果は1日目・2日目の終了時に発表（中間・最終）し、各発表の後、参加学生とスタッフによる質疑応答が行われます。また、最終発表後、スタッフによる採点が為さ

れ、最優秀チームを決定します。

企業とは何か？ という、ある意味答えのない問いかけに対し、今回も多くが学生が大いに戸惑いながら討議をスタートしたようでした。

チームメンバーそれぞれが思い思いの考えを出し合い、スタッフのサポートの下、それを徐々にひとつにまとめ上げていくプロセスを経験していきます。そして、ここでも企業における成果の出し方を求められます。

定められた期限内に、理路整然と自分たちの考えがまとめ上げられていること、テーマに対する矛盾が無いこと、調査した情報に誤りや嘘が無いこと、何より聞いている人がその発表内容に価値があると思ってくれること。そういった観点での成果物作成をスタッフがサポートします。非常に高いハードルを学生達にクリアしてもらうため、初日終了後の中間発表に対するスタッフからの質疑は自然と厳しいものになります。

しかし、ほとんどの学生達はその厳しさの意図をきちんと理解し、新たな闘志を燃やしてくれたように感じました。また、他チームの発表を聞き、自分達のチームに無い観点や気づきを得、大いに刺激を受けて翌日

に向けてのモチベーションを高めてくれたように感じます。

グループ討議2日目は朝から学生達の熱気が違っていました。活発な意見交換、スタンディングでの議論、サポートするスタッフも初日にも増して熱が入ります。

2日目終了後の最終発表ではスタッフからの質疑だけでなく学生達からも多くの質疑が出て、大いに盛り上がりました。



図2：グループ討議の様子

◆修了式

3日間のスクールは修了式で締めくくられます。修了式では修了証の授与とともに、参加した学生一人一人から決意表明を行っていただきま

す。スクールの内容を振り返り、そこで得たもの、感じたもの、未来に対する決意を語ってくれました。

スクール初日とは少し違う、それぞれに成長した学生達の表情を見ることができました。

◆お伝えしたいこと

私は明専スクールに参加して今年で3年目になります。

今年度はグループ討議の導入となる「企業とは」という題目の講義を初日に、2日目・3日目はAチームのグループ討議スタッフを担当させていただきました。

私がこのスクールに参加しているのは、日本における技術者の在り方が大きな転換期を迎えているという危機感があるからです。この転換期を九州工業大学の卒業生達にしっかりと乗り越えていただき、世界に通用する技術者として大いに活躍してほしいと思っています。

例えば、日本の産業の柱である自動車は、グローバルなEVシフト、自動運転技術とシェアリングエコノミーにより、大変革の時代を迎えています。電子立国であったはずの日本はこの30年でそのシェアを奪われ、

高度に電子化した自動車へとシフトすることでなんとか産業を支えてきました。しかし、そう遠くない未来、日本車のシェアがこの大変革により衰退するようなことになった時、新たにシフトする先が見当たらないというのが今の日本です。

このような背景の下、これからの技術者には技術を生かし、新たな産業を生み出すための知識や教養が必要となります。

まさに、九州工業大学の育成方針である「技術に堪能なる士君子」となることが求められているのです。

社会人としてのスタートを切ろうとしている学生達に、少しでも「技術に堪能なる士君子」となる意義と必要性を伝えられればとの思いで明専スクールに参加しています。

明専スクールは多くのスタッフの方々に支えられています。そしてそのスタッフ全員が、それぞれに熱い思いを持ち、参加されているように感じます。

学生の皆さんには、是非、明専スクールに参加していただき、その思いを直に肌で感じていただければと思います。

(株野村総合研究所)